

高頻度データを使用した人民元の二重相場

伊藤隆敏* 佐藤綾野†

概要

2013年11月現在、人民元(RMB)は、上海市場(中国本土)と香港市場でのみ取引が許されており、その他の市場での取引は原則禁止されている。この上海市場と香港市場は、同じ人民元を取引しているのにも関わらず、全く異なる制度を有している。本研究の目的は、上海市場と香港市場の為替市場制度の相違と比較、また高頻度データを使用して両市場の特徴の分析を行うものである。主な結論は、上海市場では中国人民銀行の管理のもと、中心平価の為替レート水準を毎日公表し、その中心平価の周りの変動幅を固定するクローリングペッグ制を導入している一方、香港市場では資本規制のない自由変動相場制を採用している。そのため、両市場の連関はあるものの、それぞれの市場に独自の日中変動の特徴があることがわかった。

JEL:G15, G28, G21

*東京大学大学院経済学研究科

†高崎経済大学経済学部